

の言葉ことばどおりのケサの活動は、終わってしまいました。

かん者たちは、戸の外にあふれ、家のまわりを七重ななえにも八重やえにもかこんで悲しみました。滝尻原に十字かが立てられました。千代子は、その墓の前で、自分の体が雪にうずもれていくのもわからないほど、泣き続けました。

公立病院の庭にある顕彰碑けんしょうひ（ほめたたえる記念碑）は、ケサの人を愛する心を頌徳という文字であらわし、後の世の人に語りつぎたいと、須賀川の杉原文吾牧師さんたちの手で建てられたものです。（昭和三十一年）

※注 ハンセン病（癩病らいびょう）

大正時代ではなおらない病気でありますが、
医学の進歩により今ではなおる病気になりました。